

経営比較分析表

岡山県 真庭市

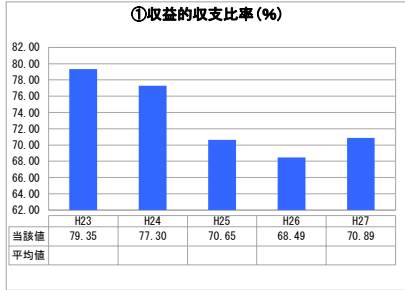
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	24.99	72.20	3,110

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
47,820	828.53	57.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
11,864	5.35	2,217.57

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



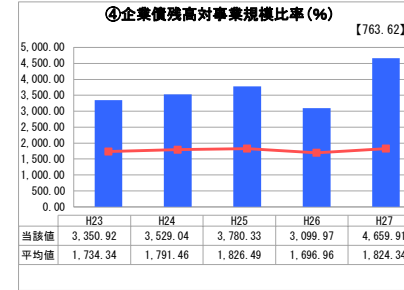
「単年度の収支」



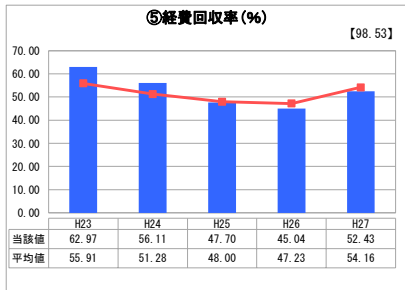
「累積欠損」



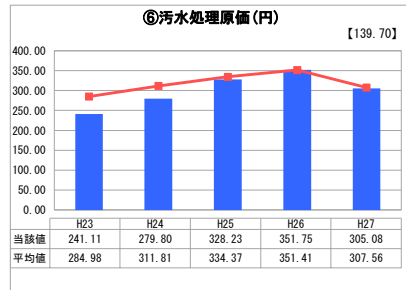
「支払能力」



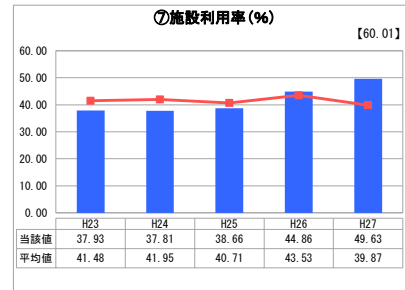
「債務残高」



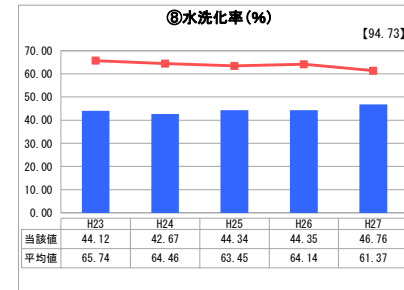
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

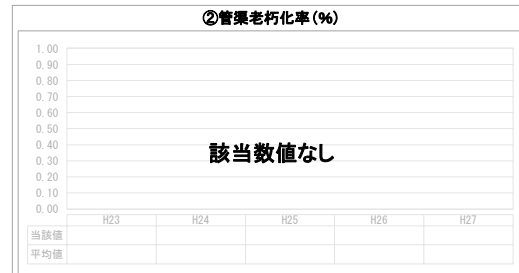


「使用料対象の捕捉」

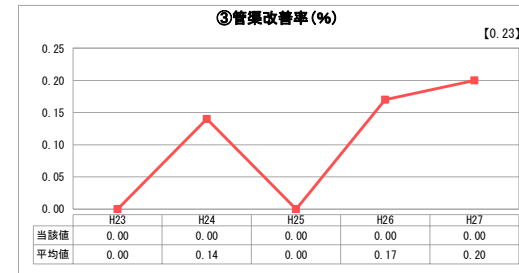
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
H24末に落合浄化センターが供用開始し料金収入の増加、繰入金の内分式下水道に要する経費の増加などにより前年比2.4%改善した。

④企業債残高対事業規模比率
中山間地域の地理的な要因などにより整備費が割高となっており平均値を上回っている。

⑤経費回収率
H24末に落合浄化センターが供用開始したため経費が増加し回収率が低下したが、供用開始区域の増加に伴い料金収入が増加し回収率が向上した。

⑥汚水処理原価
類似団体と同程度の処理原価であるが、H24末落合浄化センターの供用開始に伴い有収水量が増加し、前年度より低くなっている。

⑦施設利用状況
処理区域の拡大を引き続き行っているため、処理水量が増加し利用率が向上している。

⑧水洗化率
高齢者世帯の増加、経済的な理由により水洗化率が低く類似団体の平均値を下回っている。安定した経営のためにも水洗化率の向上を図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

供用開始から10年以上経過している施設もあり、今後は耐用年数に近づく設備があるため、長寿命化計画を策定し、部品交換等設備の延命化と処理機能を確保するとともに費用の縮減を図る。

全体総括

下水道区域の整備を引き続き行っているが、人口減少等を踏まえH26度末に区域の見直しにより145haの削減を行ったが、水洗化率が46.76%と低い状況であり処理原価が高く、経費回収率が低くなっている。水洗化率の向上を図り、経営の安定化を図る必要がある。

H29年度より企業会計の適用を予定しており、適用後は収支状況を明確にし適正化を図り、経営基盤の強化を進めることが不可欠である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。